



所属チーム／ELFIN
出身地／福島県 年齢／22才
持ち点／1.0

12 石川 優衣

ISHIKAWA Yui

理想は“縁の下の力持ち”的存在

石川 優衣(1.0)

<醍醐味はロー特有の役割>

今年3月に大学を卒業し、4月には社会人となった石川優衣。彼女が車いすバスケットボールを始めたのは4年前の大学1年の時だった。

高校までは文化部に所属し、スポーツとは無縁だったという石川。しかし、運動不足を感じ、何かスポーツを始めようと思った。そこで選んだのが、車いすバスケットボール。理由は「健常のバスケット部を見ていて、カッコいいなと思っていたから」。

それまでは車いすバスケットと接する機会はなかった。だが、高校の体育の授業では車いすに乗りながらシュートをしたことがあり、担当教師からは車いすバスケットの存在を教えてもらっていた。そこで大学入学を機に、思い切ってクラブチームに入ることを決意したのだ。

実際にやってみると、最初はどうしてもハイポインターたちの華麗なシュートシーンばかりに目がいきがちで、ローポインターである自分自身の役割を見出すことができずにいた。しかし、やっていくうちに、そのハイポインターの得点にはローポインターが深く関わっていることを知り、ローポインター特有の魅力を感じるようになっていった。

「人一倍、上達するのも遅くて、まだまだ何もできない」と自らは謙遜するが、今では、若手の有望株の一人として女子U25日本代表メンバーにも抜擢された石川。周囲の関係者からは「決して目立つプレーはないが、安定感は抜群」という言葉も聞かれるほどのプレーヤーに成長した。

<大きな経験となった豪州遠征>

今年1月から2月にかけて行われたオーストラリア遠征では、出発2日前の練習で手の指を骨折し、帯同はしたものの、現地では見ることもできなかった。

「オーストラリアへの合宿にただついていだけなんて申し訳ないという気持ちもあって悩みましたが、やっぱり海外の選手を直に見て刺激を受け、学びたいなと思ったんです」

同世代のメンバーが体格に勝る相手に果敢に立ち向かっていく中、副キャプテンでもある石川は声を出してチームを鼓舞することに専念した。

練習や試合に参加することができず、申し訳なさと同時に、やはり歯がゆさ、悔しさはあったはずだ。だが、石川はそんな素振りを一切見せることなく、常に前向きな姿勢を見せ、自分にできることでチームを支えた。

「こんな状態の自分をオーストラリアまで連れてきてくれたことに感謝の気持ちしかないですし、見るだけでも学ぶことはたくさんありました。また、海外での生活を経験したことも大きかったと思います。本当に行って良かったです」

石川が理想とするプレーヤー像は“縁の下の力持ち”的存在だ。

「自分が得点を決めるというよりも、ピックなどチームメイトをいかしたアシスト的プレーがうまい選手になりたいんです。目立ちたくないけれど、裏でチームを支えられる存在になりたいなと思っています」

世界選手権では、オーストラリア遠征で抱いた「申し訳なさ」と「悔しい」思いをぶつけ、そこで学んだことをいかして、今度こそプレーでチームに貢献するつもりだ。